

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	平成6年12月8日	田中 良	〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通7番町935番地 NSG-スクエア 2F (電話) 025-225-1661																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人国際総合学園	昭和32年10月10日	池田 祥護	〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通二番町541 (電話) 025-210-8565																				
分野	認定課程名	認定学科名	専任士 高度専任士																				
文化・教養	文化・教養専門課程	K-POPエンタテインメント科 (K-POPダンス&ヴォーカルコース)	平成30年文部科学省告示 第31号 -																				
学科の目的	K-POPエンタテインメント科の学科目的、優れた専門性と豊かな創造性を教育の基本理念とし、芸術分野に携わる人材としての専門技能及び実生活に必要な能力を養成すると共に文化的教養の向上を図り、社会に貢献し得る人材を育成することを目的としている。当学科では、充実したスタジオ設備の中でプロによる指導を最大限重視して専門教育を施し、専門性の高い学生を音楽業界へ輩出する。																						
認定年月日	令和2年3月25日																						
修業年限	昼夜	講義	演習																				
2年	1807時間	570時間	0																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数																				
55人	24人	0人	2人																				
兼任教員数	総教員数		8人																				
10人	10人																						
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日	成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)、D(可)、E(不可)の6段階で評価する																				
長期休み	■夏 季:8月1日～8月23日 ■冬 季:12月24日～1月5日 ■学 年 末:3月13日～4月3日	卒業・進級条件	【進級・卒業条件】 ①年次の授業全体の出席率85%以上 ②成績評価がすべてD以上 ③授業料等の学費の納入																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 補講授業、課題提出	課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭実行委員会、吹奏楽団への参加、母校部活サポーター ■サークル活動: 有																				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 音楽プロダクション等音楽業界 他 ■就職指導内容 担任・就職相談室による個別面談、就職強化週の実施、校内音楽系企業説明会の実施、面接指導 ■卒業生数 : 9 人 ■就職希望者数 : 4 人 ■就職者数 : 4 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 44.4 % ■その他 プロダクション所属:3名 アルバイト:2名 (令和2年度卒業生に関する 令和3年5月1日時点の情報)	主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス著作権検定</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>韓国語能力検定</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>Excel表計算処理技能認定試験</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>社会人常識マナー検定</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等	資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス著作権検定	③	9人	9人	韓国語能力検定	③	9人	9人	Excel表計算処理技能認定試験	③	9人	9人	社会人常識マナー検定	③	9人	9人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
ビジネス著作権検定	③	9人	9人																				
韓国語能力検定	③	9人	9人																				
Excel表計算処理技能認定試験	③	9人	9人																				
社会人常識マナー検定	③	9人	9人																				
中途退学の現状	■中途退学者 1名 令和2年4月1日時点において、在学者24名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者23名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 精神的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 教務部と保護者との情報共有・カウンセラーの活用	■中退率 4.2%																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 NSG無利子奨学金制度 NSG母子家庭・父子家庭奨学金制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 前年度実績 実績数0																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	http://show-net.jp/k-pop/																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄とさせていただきます

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知(25文科生第596号))」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①卒業者に占める就職者の割合とは、全卒業者のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

K-POPエンタテインメント科K-POPダンス&ヴォーカルコースでは、K-POP・J-POP業界、音楽プロダクション、芸能事務所等の音楽・エンタテインメント業界で活躍できる人材の育成を目指している。

現在のK-POP業界を取り巻く環境は日々変化しており、歌・ダンス・エンタテインメント・舞台に関する知識・技術が不可欠である。

本学科コースではこれらに必要な知識・技術を学べるようカリキュラムを編成している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム改善のための意見収集の場として位置付けられている。

業界、法人で求められる人材像に関する意見交換、それに対応できる教育内容、授業内容の検討の場として機能している。

その後、ここで得た意見を学内教務部にて再度検討し、決定する。

またその内容については、教育課程編成委員会へフィードバックを行う。

【審議の流れ】

①カリキュラム改善のための教育課程編成委員会での意見交換会議

②学内教務部にて①で出た意見を踏まえたカリキュラム改善の検討・決定

③②での決定事項を教育課程編成委員会へフィードバック

④カリキュラム改善

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
堀内 貞子	新潟市芸術文化振興財団	令和3年4月1日～令和5年3月31日	①
井上 一郎	株式会社エヌドライブ	令和3年4月1日～令和5年3月31日	③
国友慎之助	DANCE PRESENTATION UNITY	令和3年4月1日～令和5年3月31日	③
石村 剛	株式会社MAD PRODUCTION	令和3年4月1日～令和5年3月31日	③
田中 良	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日	
山本 雄太	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日	
田中 史歩	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日	
小林 美奈子	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年間2回、前期終了時、後期終了時に開催する

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月27日 17:00~18:00

第2回 令和3年2月4日 17:00~18:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

プロとしてデビューしていく上で、発声などの基礎トレーニングは重要だが、オーディション突破できることが重要であるとの意見があり、オーディションに向けた授業に力を入れることとし、「イベント制作実習」などの授業にてセルフプロモーションの技術を高め、発信していけるように内容を変更した。また、映像制作会社「MAD PRODUCTION」、レコーディング会社「エストライブ」と連携し、学生のミュージックビデオの制作や楽曲制作など行い、発信できるプロモーションコンテンツの制作を行なった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ① 企業連携に基づく実習授業を通して、学校とは異なる職業現場での経験を培う(職業実践の経験の獲得)。
 - ② 当校にて学んだ知識・技術を実践現場への応用を図ることで、新たな知識・技術の習得を図る(習得知識・技術の定着ならびに応用)。
 - ③ 企業連携を通じて、社会人として必要な意識の醸成を図る(社会人への導入教育)。
 - ④ 業界または各企業の人材採用における人材要素の確認(人材要素に関する情報収集)。
 - ⑤ 採用を視野にいれた実習運営(企業との良好な関係性の構築)。
 - ⑥ 実習時間内における安全性の確保。
- 以上6点を基本方針として、実習授業の運営の協力を依頼している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

基本的な企業との連携内容については、教員と企業担当者で事前打ち合わせを行い、業界のニーズに沿った内容や評価方法について話し合い、その後、学生と企業担当者で実習内容の打ち合わせを行い、企業担当者指導の下、実習を行う。

その後、進捗状況をチェックし、フィードバックとして必要な研修を学生に対し、行う。

実習後は企業担当者からの評価を踏まえ、教員が成績評価を行う。

以下具体的な授業内容とその方法、評価についてである。

- ①「イベント制作実習」では、企業である「株式会社柳都アーティストファーム」と実習内容について、業界のニーズに沿った内容や評価方法について設定
- ②学生と企業担当者で実習内容の事前の打ち合わせを行う
- ③「イベント制作実習」にて上記企業指導の下、実際のイベントを制作
- ④学生による実習の報告を学内にて教員が確認し、必要な研修の実施
- ⑤企業担当者による評価として、学生の制作内容、技術の習熟度を総合評価
- ⑥企業担当者による評価に基づき、教員が成績評価を行う

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
イベント制作実習A	進級・卒業における音楽イベントの発表会 野外フェスを作り上げる。フェスを作り上げる過程を企業と連携する。またステージの動画を音楽系企業に送付し、フィードバックを頂き、自身の学びにつなげていく。	株式会社柳都アーティストファーム
イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 新潟県民会館でのコンサートを実施。コンサートを作り上げる過程を企業と連携し、行っていく。またアーティストの視点でCD制作やミュージックビデオ制作を行ない、自身の活動に活かしていく。	株式会社柳都アーティストファーム

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 企業との連携による実践的かつ専門的な知識・技術・技能や、指導力の習得・向上のための組織的な研修機会を確保している。

就業規則第57条の規定に基づき、職員の教育、研修等を行う。

①新入社員教育
 ②一般的な知識・情操に関するもの
 ③専門分野の知識・技術に関するもの
 ④組織等についての管理、監督に関するもの
 ⑤諸法規、諸規定に関するもの
 ⑥安全・衛生管理に関するもの
 ⑦その他学生指導について必要と認められるもの

また、これらの研修については年間計画に基づき、実施されるものである。

2月 新経営スタッフ研修
 3月 専門学校新任教員基礎研修
 3月 実践行動学インストラクター研修
 3月 動画研修
 3月 メンタルヘルス研修
 6月 新入社員フォローアップ研修
 6月 考課者研修
 9月 対人コミュニケーションとプレゼンテーション研修
 10月 マネジメントとリーダーシップ研修
 10月 コーチング研修
 11月 問題解決研修

また、このほかに業界の動向などを把握の上、専門課程の研修計画を改善し、必要な研修を実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「音楽業界の仕事について」(連携企業等: エイベックス・マネジメント株式会社)

期間: 令和2年4月21日 対象: 全教員

内容: 日々変化する音楽・エンタメ業界における職種について、また、求められる人物像について学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「実践行動学インストラクター研修」(連携企業等: 実践行動学研究所)

期間: 令和2年8月4日 対象: 全教員

内容: 学生のモチベーションアップのための研修、動機づけ、指導力向上など、グループディスカッションしながら情報共有を行う。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「これからの音楽エンタテインメントとは」(連携企業等: コンサートプロモーターズ協会)

期間: 令和3年11月5日 対象: 全教員

内容: ライヴビジネスの現在、CDからライブ、オンラインへ変革を遂げる今の音楽業界についてコンサートプロモーターズ協会の方から学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「新任教員フォローアップ研修」(連携企業等: 株式会社マネジメントサービスセンター)

期間: 令和3年10月21日 対象: 入社3年目までの教員

内容: 教員としての自己の役割を再確認し、今後の課題を明確化する。また、学生指導や育成を目的としたインタアクションを学び、学生と信頼関係を築き、意欲を引き出すスキル習得を目指す。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学生、保護者、教職員等、直接的な学校関係者および就職先企業など、当校を取り巻く関係者にわかりやすく、明確な学校評価を実施する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
(2) 学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか
(3) 教育活動	・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されて
(4) 学修成果	・就職率の向上が図られているか
(5) 学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されてい
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9) 法令等の遵守	・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っている
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価すべき点として、主に以下のような内容が意見として出ている。

①新潟県の多くのイベントで生徒たちがインターンシップなどで活躍している状況は、新潟の音楽文化発展に大きく寄与している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
下坂 旬也	株式会社 柳都アーティストファーム	令和3年4月1日～令和5年3月31日	企業代表取締役
松本 和良	株式会社 柳都アーティストファーム	令和3年4月1日～令和5年3月31日	企業役員
国友 慎之助	Dance Presentation UNITY	令和3年4月1日～令和5年3月31日	代表
山崎 亮	作曲家(フリーランス)	令和3年4月1日～令和5年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: http://show-net.jp/pdf/information/evaluation_2020.pdf

公表時期: 年度末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・パンフレットなどの印刷物、ホームページなど学校の紹介の中で現在の状況を伝えること
- ・具体性を持った情報提供に努めること

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://show-net.jp/information.php>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程K-POPエンタテインメント科K-POPダンス&ヴォーカルコース) 令和3年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			SHOW!音楽エンタテインメントゼミ	関連企業による専門分野に特化した講演・講義を実施。音楽・放送分野に関する基礎的な知識や技術の習得とともに、同分野への興味関心をより高める。	1・2通	76		○			○				○
2	○			デビュー・就職実務Ⅰ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	1通	93		○			○		○		
3	○			デビュー・就職実務Ⅱ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	2通	55		○			○		○		
4	○			著作権	音楽著作権を主とした知識習得およびビジネス著作権初級合格	1後	20		○			○		○		
5	○			PC実習	Word文書処理技能認定試験・Excel表計算処理技能認定試験3級合格を目指すとともに、基本的なビジネス文書の作成や、様々な自己プレゼン資料等の作成に生かす。	1・2通	45			○		○		○		
6	○			選択授業	音楽関係全般の選択授業	1・2通	76		○			○		○	○	
7	○			異文化研究	グローバル化していく時代に対応するため、他国の文化を学び研究し、プレゼンを行う	1後	22		○			○		○		
8	○			イベント制作実習A	進級における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2前	244					○	○	○	○	○
9	○			イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2後	606					○	○	○	○	○
10	○			韓国語Ⅰ	ハンガルの仕組み、基本発音を学び、基本的な日常会話までできる事を目指す。 また、基本的な日常会話で使われる文法を理解する。	1通	76		○			○		○		
11	○			韓国語Ⅱ	1年次から引き続き延世韓国語を使用し、基礎的な文法を理解し、必須の語彙を習得する。 日常的な場面で、自然に韓国語で会話できるようになる事を目指す。	2通	76		○			○		○		

12	○		ネイティブ韓国語 I	この講義では韓国語の発音と抑揚、そして韓国文化について学ぶ。韓国語で自己紹介と挨拶などの簡単な会話と韓国語を表記するアルファベットであるハングルの発音と抑揚の習得を目標とする。	1通	19		○		○		○
13	○		ネイティブ韓国語 II	韓国語の発音と抑揚トレーニングの教材を使い発音の練習をする	2通	19		○		○		○
14		○	TOPIK I 検定対策	TOPIK I (1級~2級) 合格に必要な聞き取り力と読み取り力を身に付け、合格する為の語彙力を習得する。語彙力については、通常の文法授業で学習する語彙の他、検定対策用の語彙までを学ぶ。	1通	38		○		○		○
15		○	TOPIK II 検定対策	「聴き取り」、「作文」、「読解」全ての項目に対し、それぞれ過去問で頻繁に出題される語彙・文法を勉強していく。過去問のパターンと問題を分析し、それを理解・応用して問題が解けるよう学習していく。	2通	38		○		○		○
16		○	韓国語ヴォーカル	歌の基礎となる発声の練習や韓国語の発音、意味などを習い曲をより豊かに表現できるように練習していきます。ラップや作詞の時間も取り入れて韓国語の歌に慣れるように練習します。	1・2通	76			○	○		○
17	○		JAZZ I	体の柔軟性、リズム感、綺麗なポジション取りなどダンスの様々な要素が必要となるので、レッスンでは基礎を重点的に行う。	1通	38			○	○		○
18	○		JAZZ II	主に舞台上で踊るためのシアタージャズ、バレエ基礎に基づいたリリカルジャズ、コンテンポラリーを行う。	2通	38			○	○		○
19	○		JAZZ FUNK I	必要なダンススキルを磨くためにポジション・基礎力をあげるための振り付け・トレーニングを1から鍛えます。	1通	38			○	○		○
20	○		JAZZ FUNK II	最終的な目標としては、このSHOW!で過ごした学生時代が将来必ず自分の糧になるよう、人間性・仲間意識構築・自分の将来を自分で切り開く行動力を身に付けるための授業を行います。	2通	38			○	○		○
21	○		ヴォーカル実技 I	発声基礎から、歌唱で必要なメロディーアプローチ、グループ感、ヴォーカルコントロール全般のレッスンを行う。	1通	38			○	○		○
22	○		ヴォーカル実技 II	発声基礎から、歌唱で必要なメロディーアプローチ、グループ感、ヴォーカルコントロール全般のレッスンを行う。	2通	38			○	○		○
23	○		PCデザイン実習	PCを使う事によって自身のプロフィール作成や、デザインを学び、基本的なクリエイティブツールを使いこなす事で自己プロデュース力を身に付ける。	1通	38		○		○		○
24	○		K-POP韓国語	K-POP楽曲を用いて、韓国語の意味や、発音方法などを学習する。 また、オーディション面接時などに使える韓国語、音楽業界で使用する韓国語なども併せて学習する。	2通	38		○		○		○
合計					24科目		1807単位時間(単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地		
国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	平成6年12月8日	田中 良	〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通7番町935番地 NSG-スクエア 2F (電話) 025-225-1661		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地		
学校法人国際総合学園	昭和32年10月10日	池田 祥護	〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通二番町541 (電話) 025-210-8565		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士 高度専門士		
文化・教養	文化・教養専門課程	K-POPエンタテインメント科 (K-POPビジネスコース)	平成30年文部科学省告示 第31号 -		
学科の目的	K-POPエンタテインメント科の学科目的:優れた専門性と豊かな創造性を教育の基本理念とし、芸術分野に携わる人材としての専門技能及び実生活に必要な能力を養成すると共に文化的教養の向上を図り、社会に貢献し得る人材を育成することを目的としている。当学科では、充実したスタジオ設備の中でプロによる指導を最大限重視して専門教育を施し、専門性の高い学生を音楽業界へ輩出する。				
認定年月日	令和2年3月25日				
修業年限	昼夜	講義	演習		
2年	1807時間	836時間	0		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数		
55人	16人	0人	1人		
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日	成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)、D(可)、E(不可)の6段階で評価する		
長期休み	■夏季:8月1日～8月23日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月13日～4月3日	卒業・進級条件	【進級・卒業条件】 ①年次の授業全体の出席率85%以上 ②成績評価がすべてD以上 ③授業料等の学費の納入		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 補講授業、課題提出	課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭実行委員会、吹奏楽団への参加、母校部活サポート ■サークル活動: 有		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 音楽プロダクション等音楽業界 他 ■就職指導内容 担任・就職相談室による個別面談、就職強化週の実施、校内音楽系企業説明会の実施、面接指導 ■卒業生数 : 9 人 ■就職希望者数 : 5 人 ■就職者数 : 5 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 55.6 % ■その他 アルバイト:4名 (令和2年度卒業生に関する 令和3年5月1日時点の情報)	主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)		
中途退学の現状	■中途退学者 0名 令和2年4月1日時点において、在学者15名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者15名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 0 ■中退防止・中退者支援のための取組 教務部と保護者との情報共有・カウンセラーの活用	資格・検定名	種	受験者数	合格者数
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 NSG無利子奨学金制度 NSG母子家庭・父子家庭奨学金制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 前年度実績 実績数0	ビジネス著作権検定	③	9人	9人
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)	韓国語能力検定	③	9人	9人
当該学科のホームページURL	http://show-net.jp/k-pop/				
自由記述欄	Excel表計算処理技能認定試験 ③ 9人 9人 社会人常識マナー検定 ③ 9人 9人				

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄とさせていただきます

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知(25文科生第596号))」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者を含みます。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留學生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
③上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

K-POPエンタテインメント科K-POPダンス&ヴォーカルコースでは、K-POP・J-POP業界、音楽プロダクション、芸能事務所等の音楽・エンタテインメント業界で活躍できる人材の育成を目指している。

現在のK-POP業界を取り巻く環境は日々変化しており、歌・ダンス・エンタテインメント・舞台に関する知識・技術が不可欠である。

本学科コースではこれらに必要な知識・技術を学べるようカリキュラムを編成している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム改善のための意見収集の場として位置付けられている。

業界、法人で求められる人材像に関する意見交換、それに対応できる教育内容、授業内容の検討の場として機能している。

その後、ここで得た意見を学内教務部にて再度検討し、決定する。

またその内容については、教育課程編成委員会へフィードバックを行う。

【審議の流れ】

①カリキュラム改善のための教育課程編成委員会での意見交換会議

②学内教務部にて①で出た意見を踏まえたカリキュラム改善の検討・決定

③②での決定事項を教育課程編成委員会へフィードバック

④カリキュラム改善

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
堀内 貞子	新潟市芸術文化振興財団	令和3年4月1日～令和5年3月31日	①
井上 一郎	株式会社エヌドライブ	令和3年4月1日～令和5年3月31日	③
国友慎之助	DANCE PRESENTATION UNITY	令和3年4月1日～令和5年3月31日	③
石村 剛	株式会社MAD PRODUCTION	令和3年4月1日～令和5年3月31日	③
田中 良	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日	
山本 雄太	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日	
田中 史歩	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日	
小林 美奈子	国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年間2回、前期終了時、後期終了時に開催する

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月27日 17:00～18:00

第2回 令和3年2月4日 17:00～18:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

プロとしてデビューしていく上で、発声などの基礎トレーニングは重要だが、オーディション突破できることが重要であるとの意見があり、オーディションに向けた授業に力を入れることとし、「イベント制作実習」などの授業にてセルフプロモーションの技術を高め、発信していけるように内容を変更した。また、映像制作会社「MAD PRODUCTION」、レコーディング会社「エストライヴ」と連携し、学生のミュージックビデオの制作や楽曲制作など行い、発信できるプロモーションコンテンツの制作を行なった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ① 企業連携に基づく実習授業を通して、学校とは異なる職業現場での経験を培う(職業実践の経験の獲得)。
 - ② 当校にて学んだ知識・技術を実践現場への応用を図ることで、新たな知識・技術の習得を図る(習得知識・技術の定着ならびに応用)。
 - ③ 企業連携を通じて、社会人として必要な意識の醸成を図る(社会人への導入教育)。
 - ④ 業界または各企業の人材採用における人材要素の確認(人材要素に関する情報収集)。
 - ⑤ 採用を視野にいれた実習運営(企業との良好な関係性の構築)。
 - ⑥ 実習時間内における安全性の確保。
- 以上6点を基本方針として、実習授業の運営の協力を依頼している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

基本的な企業との連携内容については、教員と企業担当者で事前打ち合わせを行い、業界のニーズに沿った内容や評価方法について話し合い、その後、学生と企業担当者で実習内容の打ち合わせを行い、企業担当者指導の下、実習を行う。

その後、進捗状況をチェックし、フィードバックとして必要な研修を学生に対し、行う。

実習後は企業担当者からの評価を踏まえ、教員が成績評価を行う。

以下具体的な授業内容とその方法、評価についてである。

- ①「イベント制作実習」では、企業である「株式会社柳都アーティストファーム」と実習内容について、業界のニーズに沿った内容や評価方法について設定
- ②学生と企業担当者で実習内容の事前の打ち合わせを行う
- ③「イベント制作実習」にて上記企業指導の下、実際のイベントを制作
- ④学生による実習の報告を学内にて教員が確認し、必要な研修の実施
- ⑤企業担当者による評価として、学生の制作内容、技術の習熟度を総合評価
- ⑥企業担当者による評価に基づき、教員が成績評価を行う

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
イベント制作実習A	進級・卒業における音楽イベントの発表会 野外フェスを作り上げる。フェスを作り上げる過程を企業と連携する。またステージの動画を音楽系企業に送付し、フィードバックを頂き、自身の学びにつなげていく。	株式会社柳都アーティストファーム
イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 新潟県民会館でのコンサートを実施。コンサートを作り上げる過程を企業と連携し、行っていく。またアーティストの視点でCD制作やミュージックビデオ制作を行ない、自身の活動に活かしていく。	株式会社柳都アーティストファーム

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 企業との連携による実践的かつ専門的な知識・技術・技能や、指導力の習得・向上のための組織的な研修機会を確保している。

就業規則第57条の規定に基づき、職員の教育、研修等を行う。

①新入社員教育
 ②一般的な知識・情操に関するもの
 ③専門分野の知識・技術に関するもの
 ④組織等についての管理、監督に関するもの
 ⑤諸法規、諸規定に関するもの
 ⑥安全・衛生管理に関するもの
 ⑦その他学生指導について必要と認められるもの

また、これらの研修については年間計画に基づき、実施されるものである。

2月 新経営スタッフ研修
 3月 専門学校新任教員基礎研修
 3月 実践行動学インストラクター研修
 3月 動画研修
 3月 メンタルヘルス研修
 6月 新入社員フォローアップ研修
 6月 考課者研修
 9月 対人コミュニケーションとプレゼンテーション研修
 10月 マネジメントとリーダーシップ研修
 10月 コーチング研修
 11月 問題解決研修

また、このほかに業界の動向などを把握の上、専門課程の研修計画を改善し、必要な研修を実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「音楽業界の仕事について」(連携企業等: エイベックス・マネジメント株式会社)

期間: 令和2年4月21日 対象: 全教員

内容: 日々変化する音楽・エンタメ業界における職種について、また、求められる人物像について学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「実践行動学インストラクター研修」(連携企業等: 実践行動学研究所)

期間: 令和2年8月4日 対象: 全教員

内容: 学生のモチベーションアップのための研修、動機づけ、指導力向上など、グループディスカッションしながら情報共有を行う。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「これからの音楽エンタテインメントとは」(連携企業等: コンサートプロモーターズ協会)

期間: 令和3年11月5日 対象: 全教員

内容: ライヴビジネスの現在、CDからライブ、オンラインへ変革を遂げる今の音楽業界についてコンサートプロモーターズ協会の方から学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「新任教員フォローアップ研修」(連携企業等: 株式会社マネジメントサービスセンター)

期間: 令和3年10月21日 対象: 入社3年目までの教員

内容: 教員としての自己の役割を再確認し、今後の課題を明確化する。また、学生指導や育成を目的としたインタアクションを学び、学生と信頼関係を築き、意欲を引き出すスキル習得を目指す。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学生、保護者、教職員等、直接的な学校関係者および就職先企業など、当校を取り巻く関係者にわかりやすく、明確な学校評価を実施する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
(2) 学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか
(3) 教育活動	・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されて
(4) 学修成果	・就職率の向上が図られているか
(5) 学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されてい
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9) 法令等の遵守	・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っている
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価すべき点として、主に以下のような内容が意見として出ている。

①新潟県の多くのイベントで生徒たちがインターンシップなどで活躍している状況は、新潟の音楽文化発展に大きく寄与している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
下坂 旬也	株式会社 柳都アーティストファーム	令和3年4月1日～令和5年3月31日	企業代表取締役
松本 和良	株式会社 柳都アーティストファーム	令和3年4月1日～令和5年3月31日	企業役員
国友 慎之助	Dance Presentation UNITY	令和3年4月1日～令和5年3月31日	代表
山崎 亮	作曲家(フリーランス)	令和3年4月1日～令和5年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: http://show-net.jp/pdf/information/evaluation_2020.pdf

公表時期: 年度末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・パンフレットなどの印刷物、ホームページなど学校の紹介の中で現在の状況を伝えること
- ・具体性を持った情報提供に努めること

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://show-net.jp/information.php>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程K-POPエンタテインメント科K-POPビジネスコース) 令和3年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			SHOW!音楽エンタテインメントゼミ	関連企業による専門分野に特化した講演・講義を実施。音楽・放送分野に関する基礎的な知識や技術の習得とともに、同分野への興味関心をより高める。	1・2通	76		○			○				○
2	○			デビュー・就職実務Ⅰ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	1通	93		○			○		○		
3	○			デビュー・就職実務Ⅱ	デビュー・専門職就職に向け、過去の実績を基にした実践的オーディションや面接トレーニング及び、企業研究。	2通	55		○			○		○		
4	○			著作権	音楽著作権を主とした知識習得およびビジネス著作権初級合格	1後	20		○			○		○		
5	○			PC実習	Word文書処理技能認定試験・Excel表計算処理技能認定試験3級合格を目指すとともに、基本的なビジネス文書の作成や、様々な自己プレゼン資料等の作成に生かす。	1・2通	45				○	○		○		
6	○			選択授業	音楽関係全般の選択授業	1・2通	76		○			○		○	○	
7	○			異文化研究	グローバル化していく時代に対応するため、他国の文化を学び研究し、プレゼンを行う	1後	22		○			○		○		
8	○			イベント制作実習A	進級における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2前	244					○	○	○	○	○
9	○			イベント制作実習B	進級・卒業における音楽イベントの発表会 企業と連携し発表会の企画制作、映像制作、当日の運営、撮影、司会進行等を行う。	1・2後	606					○	○	○	○	○
10	○			韓国語Ⅰ	ハングルの仕組み、基本発音を学び、基本的な日常会話までできる事を目指す。 また、基本的な日常会話で使われる文法を理解する。	1通	76		○			○		○		
11	○			韓国語Ⅱ	1年次から引き続き延世韓国語を使用し、基礎的な文法を理解し、必須の語彙を習得する。 日常的な場面で、自然に韓国語で会話できるようになる事を目指す。	2通	76		○			○		○		

12	○		ビジネス韓国語 I	簡単な格式体の表現からビジネス表現、ハングルを用いてのPC入力、メールの書き方まで、韓国語を使う業界に必要なビジネス韓国語を学んでいく。	1通	38		○		○		○		
13	○		ビジネス韓国語 II	今まで学習した韓国語の語彙と文法を活用した各場面でのビジネス会話の練習をすることによってより自然で韓国人らしい会話力とビジネスに必要な業務スキルを身につけることを目標とする。	2通	38		○		○		○		
14		○	ネイティブ韓国語 I	この講義では韓国語の発音と抑揚、そして韓国文化について学ぶ。韓国語で自己紹介と挨拶などの簡単な会話と韓国語を表記するアルファベットであるハングルの発音と抑揚の習得を目標とする。	1通	19		○		○		○		
15		○	ネイティブ韓国語 II	韓国語の発音と抑揚トレーニングの教材を使い発音の練習をする	2通	19		○		○		○		
16		○	TOPIK I 検定対策	TOPIK I (1級～2級) 合格に必要な聞き取り力と読み取り力を身に付け、合格する為の語彙力を習得する。語彙力については、通常の文法授業で学習する語彙の他、検定対策用の語彙までを学ぶ。	1通	38		○		○		○		
17	○		TOPIK II 検定対策	「聴き取り」、「作文」、「読解」全ての項目に対し、それぞれ過去問で頻繁に出題される語彙・文法を勉強していく。過去問のパターンと問題を分析し、それを理解・応用して問題が解けるよう学習していく。	2通	38		○		○		○		
18	○		ライブマーケティング I	コンサート・ライブビジネスの基本知識を学ぶ。アーティストマネジメント・音楽業界の仕組み・業界の仕事(職種)など、業界就職の目標となるべく業界知識を授業で習得する。	2通	38				○	○		○	
19	○		ライブマーケティング II	オリコンコンフィデンスの記事を基に、エンタテインメント業界人が語る事、研究事例をグループワークで分析し、自己なりの見解を発信する。	1通	38				○	○		○	
20	○		簡易PA実習	この授業を通じて学校内外での簡易的なイベントでPAが出来るようになることを目標とする。	2通	38				○	○		○	
21	○		動画配信基礎	インターネット動画の概要など基礎的な知識の習得から動画業界の実情を学び、さらにスマホと一眼ムービーを実際に使った動画制作を実習形式で体験する。	1通	38				○	○		○	
22	○		デザイン実習 I	Illustratorの基本操作を学び、HP、フライヤーデザインなど実践的な操作を目標とする。検定取得に向けた演習問題の実施等。	2通	38				○	○		○	
23	○		デザイン実習 II	Photoshopの基本操作を学び、HP、写真加工の技術、フライヤーデザインなど実践的な操作を目標とする。検定取得に向けた演習問題の実施等。	1通	38		○		○		○		
24														
合計				23科目	1807単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。